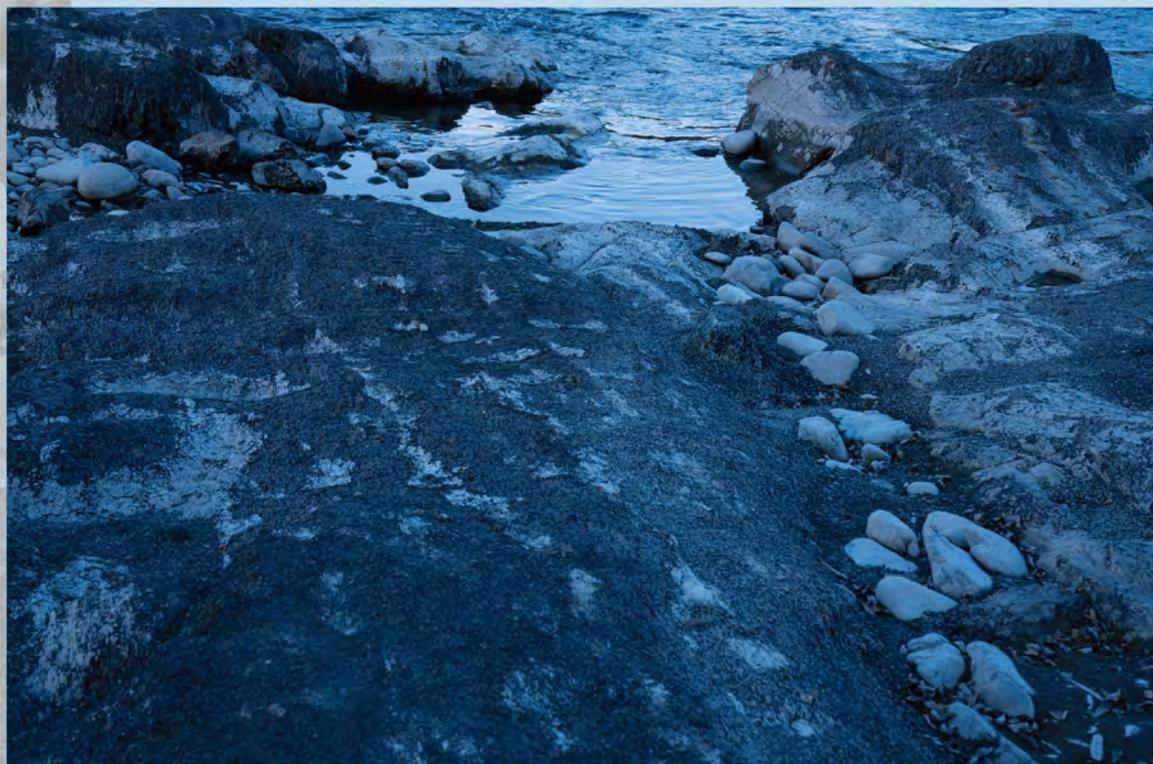


2022年度明治大学建築シンポジウム

総合芸術とは何か

— 場所と意識、そのあいだを往還する芸術へ



〔日時〕

11月12日(土)14:00~17:00

〔場所〕

明治大学生田キャンパス

第二校舎A館4階

特殊プレゼンホール(A416・417)

*YouTubeライブ配信あり

<https://youtu.be/P4svRp2ZAMU>

開会挨拶: 田中友章 (建築学科・主任/専任教授)

第1部:プレゼンテーション

1-1「場所へのまなざし」

大澤舞 (総合文化教室・専任講師)

宮川絹代 (総合芸術系・兼任講師)

山本洋平 (総合芸術系・専任准教授)

1-2「表現へのアプローチ」

水野真紀子 (総合文化教室・専任講師)

波戸岡景太 (総合芸術系・専任教授)

第2部:パネルディスカッション

青井哲人 (建築学科・専任教授)

門脇耕三 (建築学科・専任准教授)

+第1部登壇者

進行: 鞍田崇 (総合芸術系・専任准教授)



大澤舞 (おおさわ まい) 総合文化教室 専任講師

英国レスター大学Victorian Studies MA修了後、成城大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。専門は19世紀英国(ヴィクトリア朝)文学。主に女性作家を扱い、当時の女性たちが、いかに公的/私的「空間」を移動、獲得、共有したのかを研究。主要論文は「マデイラ島の『いかかわしい商人』—『ジェイン・エア』における遺産相続と女性の投資」(英文学研究96, 2019)。

宮川絹代 (みやがわ きぬよ) 総合芸術系 兼任講師

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修了。博士(学術)。専門は20世紀ロシア文学。主にロシア革命を機にヨーロッパに亡命した作家や詩人の文学を対象として、「ロシア的なもの」とは何かを問う研究を続けている。著書『ブーニンの「眼」—イメージの文学』(水声社、2013)の他、青や皮膚のイメージから「境界」の問題を考察した論文などがある。



山本洋平 (やまもと ようへい) 総合芸術系 専任准教授

立教大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。専門はアメリカ環境文学、西部文学、場所論、学術ワークショップの実践。編著書に『環境人文学I:文化としての自然』・『環境人文学II:他者としての自然』(勉誠出版、2017)、『深まりゆくアメリカ文学』(ミネルヴァ書房、2021)、論考に「Unsettling the Wilderness: Thoreau's Post-Sublime Vision in *The Maine Woods*」. (*Studies in English Literature*, 2021)など。



水野真紀子 (みずの まきこ) 総合文化教室 専任講師

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻及びオーストリア国立ウィーン応用美術大学メディア理論科、単位取得満期退学。ベルリン自由大学哲学科客員研究員等を経て現職。専門は記号論、認知言語学。主に、言葉とその他の表現媒体の交わり方について研究を続けている。論文に「『ことばと思考』再考—日本語の書記言語の認知モデル構築に向けて」(明治大学教養論集562, 2022)など。



波戸岡景太 (はとおか けいた) 総合芸術系 専任教授

慶應義塾大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。専攻はアメリカ文学。小説の映画化、映画の小説化、コミックの実写化など、物語の翻案(=アダプテーション)について研究している。著者に『映画原作派のためのアダプテーション入門』(彩流社、2017)、『映画ノベライゼーションの世界』(小鳥遊書房、2020)、『ラノベのなかの現代日本』(講談社、2013)など。



青井哲人 (あおい あきひと) 建築学科 専任教授

京都大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。専門は建築史・建築論。著書に『ヨコとタテの建築論』(慶應義塾大学出版会、2023年刊行予定)、『彰化一九〇六年』(アセテート、2006)、『植民地神社と帝国日本』(吉川弘文館、2005)、共編著に『津波のあいだ、生きられた村』(鹿島出版会、2019)、『世界建築史15講』(彰国社、2019)、『日本都市史・建築史事典』(丸善出版、2018)など多数。受賞に日本建築学会著作賞(2021)、住宅総合研究財団研究選奨(2008)など。



門脇耕三 (かどわき こうぞう) 建築学科 専任准教授

東京都立大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。専門は建築構法、建築設計。建築の物的なエレメントに着目した独自の建築論を探求。第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展にて日本館のキュレーターを務める。著書に『ふるまいの連鎖:エレメントの軌跡』(TOTO出版、2020)、建築作品に『門脇邸』(2018)、受賞に日本建築学会作品選奨(2020)など。



鞍田崇 (くらた たかし) 総合芸術系 専任准教授

京都大学大学院人間・環境学研究科修了。博士(人間・環境学)。専門は哲学、環境人文学。ローカルスタンダードとインティマシーという視点から現代社会の思想状況を問う。著作に『民藝のインティマシー』(明治大学出版会、2015)、『分離派建築会』(共著、京都大学学術出版会、2020)など。NHK-Eテレ「趣味どきっ! 私の好きな民藝」を監修・出演(2018)。

